

新青森市史

通史編第四卷

現代

「市民の歴史」に共感。

編集 / 青森市史編集委員会

発行 / 青森市

2014年3月31日発刊

昭和43年10月「東北本線全線複線電化となる」(青森市蔵)

『新青森市史』通史編第四巻現代の概要

A5判 764ページ

編集方針 本巻は、すでに刊行している『新青森市史』資料編8 現代をもとにした通史です。今回同時刊行となる『新青森市史』通史編第三巻近代をうけて、昭和20年(1945)8月の終戦から、基本的には、浪岡町と合併する平成17年(2005)に至るまでの時期を叙述の対象としています。

昭和20年夏の青森大空襲で市街地のほとんどが灰燼と帰した青森市が、現在の中核市へと発展し得た原動力はどこにあるのだろうか、これが本巻の最大のテーマであるといっていでしょう。そして、そこには市民一人ひとりが発揮した恐るべき底力、すなわち「市民力」がありました。

本巻では、まさにマイナスからの出発となった戦後青森の歴史像を、「市民の歴史」という視点からアプローチするよう心がけて、編集いたしました。

本巻の内容と特色 本巻は、こうした視点から、全体を5章でもって構成しました。「県都」としての、政治・行政の動向を各章の柱に据えながらも、行楽・娯楽をも含めた市民生活のありようを歴史叙述をして描き出すことに多くの分量を割くことにいたしました。その点では、本巻の叙述、さらには掲載している写真図版は、読者の皆さんにとって身近なものであり、本市の歴史とともにそれぞれの歩みをふり返り、共鳴・共感していただけるものと思います。

また、最終章の第5章では、統計資料(データ)を用いて、市民生活や産業・経済構造などを、特に弘前・八戸の2市と比較しながら、本市の特徴を浮き彫りにしています。こうしたアプローチは、本巻の新機軸とするところです。

『新青森市史』完結 『新青森市史』通史編(全4巻)は、原始から現代まで続く「通史」で、しかも、「昭和の大合併」以前の旧町村部の歴史叙述を含んだものとしては、初めての

ものであり、本巻をもって『新青森市史』は全巻完結となります。

本巻をはじめ『新青森市史』各巻が、ふるさと「青森」の歴史をひもとく資料として、また、将来のまちづくり、人づくりなど、さまざまな場面でそのバックボーンとなるよう、永く読み継がれることを願っています。



■閲覧できる所 市民図書館・各市民センター・県立図書館・働く女性の家(アコール)

■販売している所 成田本店・よしのや本間・中世の館・歴史資料室

■販売価格 5,610円

■問合せ先 青森市民図書館歴史資料室 TEL017-732-5271